

新発田北部地区

(新潟県 新発田市)

- 計画期間 平成18年度～平成22年度
- 面積 208ha
- 交付対象事業費 2,277百万円
- 市人口 98,401人 (地区内人口 9,840人)

ポイント 新県立新発田病院への市内及び広域からのアクセス道路を整備し、将来にわたる医療需要を確保・充実させていく。

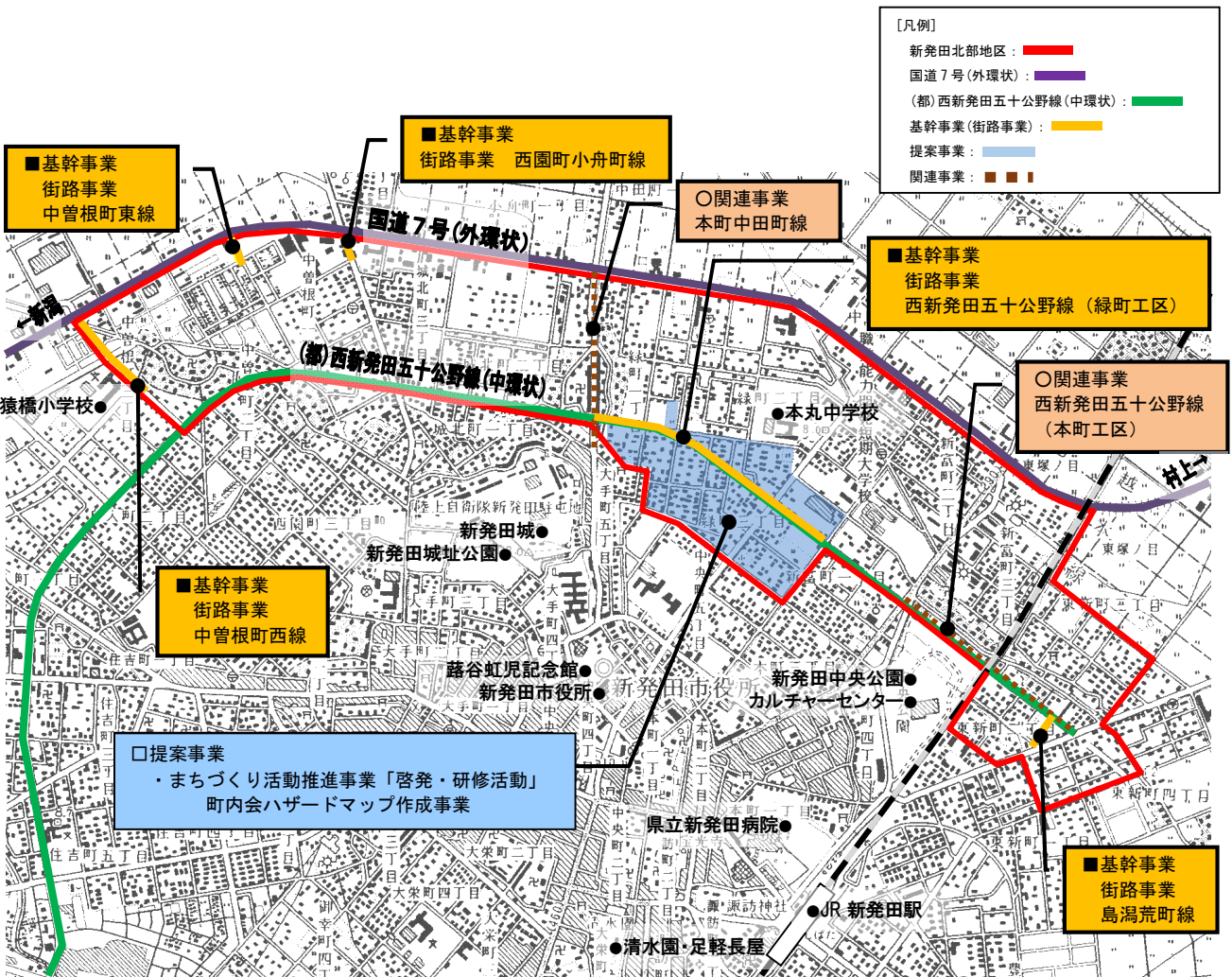
地区概要 県北地域における医療福祉の中心となる新県立新発田病院への交通ネットワークを整え、アクセス強化と利便性の向上を進める。

目標 地区内交通の円滑化を目的とした都市環境の充実と広域的な新病院へのアクセス強化

指標 県北地域における医療福祉の中心となる新県立新発田病院への市内及び広域からのアクセス強化を図ることにより将来にわたる医療需要を確保・充実させることを目標とした。

混雑度	1.5(H17)	→	1.0(H22)
アクセス時間	10分(H17)	→	8分(H22)
防災意識向上	0人(H17)	→	100人(H22)

事業内容 基幹事業 (2,271.9百万円) → 道路 (幅員 14m～16m、延長 1,141m)
 提案事業 (5.1百万円) → 町内会ハザードマップ作成・事業効果分析調査



地区の現況と課題

市街地の交通集中の緩和のため、また主要都市間を結ぶ役割を担う軸として活用されるバイパスとして、本市では、「環状軸（国道7号、南バイパスによる外環状線及び都市計画道路西新発田五十公野線による中環状線）」と「放射軸」の2種類の軸線を基本として、これらを機能的に配置した道路骨格網の形成を図っている。

また、これら個々の路線に応じて求められる役割や機能の維持・強化と、公共空間としての質的な充実をめざしている。

【広域基幹病院の移転と救命救急センターの設置】

広域基幹病院に位置づけられている県立新発田病院は平成18年11月に現在地へ移転し、あわせて救急救命センターも設置されたが、幹線道路である国道7号の慢性的な渋滞や中環状線の未整備等により十分なアクセス道が確立されていない。

緊急車両を円滑に運行できるように、広域及び市内より流入する車両を集散する道路網の整備が必要である。

【県北の地域中心都市】

本市は県北の地域中心都市としての役割を求められている。

この地域中心都市の実現に向けて、都市間交通と地域内交通相互が機能的に連帯した、体系的な交通網の確保、及び安全で魅力ある歩行空間を確保することが必要である。

【防災空間機能の向上】

道路施設は、市街地内における生活活動の利便性や通行時の快適性の向上をはかるだけでなく、非常時における防災空間としての役割など、多種多様な空間機能の向上が求められている。

提案事業の特徴

各町内会ハザードマップ作成事業

新発田市内全域を網羅したハザードマップを利用して各町内会で再検討する。町内会独自で危険箇所や避難ルートを再点検することにより防災意識の啓発や住民活動を推進する。

事業効果分析調査

各事業完了にあわせて事業効果検証とその公表を行い、市民等から寄せられる評価・意見を加え、あらためて当地区の事業効果と課題を検証する。

計画策定プロセス

地権者の勉強会

中環状線である西新発田五十公野線（緑町工区）の沿線町内会主催による勉強会を平成17年度に開催した。近年現況市道の交通量増加に伴う危険性の確認や街路整備促進に関する検討を行った。

新発田市都市マスタープランの策定・改定

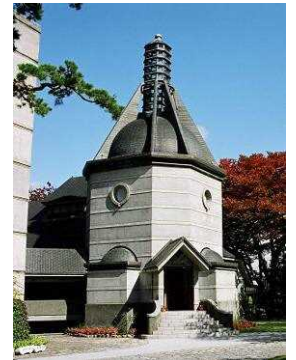
まちづくり基本方針 平成11年4月策定（平成19年12月改定）



▲ 毎年新発田城址公園で催される全国雑煮合戦



▲（新発田市出身）
堀部安兵衛像



▲（新発田市出身）
落谷虹児記念館



▲ JR新発田駅前の県立新発田病院



▲ 中環状道路 西新発田五十公野線（緑町工区）の整備前と整備後の状況